



日本福音ルーテル教会 九州教区報

発行者 角本 浩（教区長） 編集責任者 白川道生（書記）
 発行所 日本福音ルーテル教会九州教区事務所
 〒812-0028 福岡市博多区須崎町3-9
 Mail kyushu-k@jelc.or.jp
 Tel 092-281-4204 Fax 092-262-6373
 URL <http://www.jelc-kyushu.org>

大分
教會

◀今号の内容▶

- ・災害支援報告 (p2)
- ・熊本地震修復報告 (p3)
- ・阿蘇山荘委員会報告 (p4)
- ・教会物語 (p5) 八代教会／聖ペテロ教会
- ・施設紹介 (p6) 日田ルーテルこども園／九州学院
- ・各会報告 (p7) 女性会／青年会
- ・九州一円 (p8)

卷頭言

いのち

会計・財務部長
平山 俊生



「見よ、あとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」
これは「神は我々と共にあられる」という意味である。 マタイによる福音書1章23節

わたしが洗礼を受けたのは1989年、今から31年前のクリスマスです。

高校こそカトリック系の学校でしたが、キリスト教とは無縁といつてもいい人生を過ごしていました。大学卒業後は福岡の会社に就職して「修行」する予定でしたが、母が病気になり、いきなり家業を手伝うことになりました。わたしの希望は家業を継ぐことではなく、別の仕事でした。しかし、兄が既に家を出でていたし、母も病気になり状況がゆるしませんでした。

ほんとうに不真面目な態度で仕事をしていました。営業に行くと言って出かけてはさぼっており、仕事をしているとは決して言えませんでした。自分の歩みたい人生と違う、と思っていました。

たのです。

そんなわたしがイエス様に出会ったのは、一人の方を通しての仕事でした。その仕事を通してイエス様はわたしの心の戸を叩いてくださいました。でも、わたしは気づきません。

わたくしより先に父が信仰を与えられました。わたしと母は「お父さんは、何ば考えよっと？」と不満を言ってありました。「俺たちは洗礼なんか受けんもんね」とも話していました。

ところがその半年後、母が倒れ緊急手術になりました。手術室に運ばれる前、ストレッチャーの上ででしたが、はっきりと意思をもって緊急洗礼を受けました。

これには、参りました。頑なだったわたしだけですが、イエス様に捕らえられました。これが31年前のことです。主が憐みをもって共にいてくださっていると信じられるのはこの上ない幸いです。

父も母も歳90を超えるました。母はわたしに会っても、すぐには誰だかわからないようです。父も、威勢がよく熱い人ですが、静かになりました。少し寂しさはありますが、それでも恵みのうちにいのちを与えられています。

イエス様の呼びかけに気づくのが遅かったわたしだけですが、そんなわたしのためにイエス様は生まれてくださいました。

この待降節、与えられたいのちに深く感謝しながら歩みたいと思います。

信じがたきを信じ、望みがたきを望む祈り

「2021年8月豪雨災害」について
～発災後の緊急期から生活再建期にさしかかって～

9月3週目、「罹災証明」が出たというので、佐賀県大町町のAさんのお宅を訪ねました。「もうだめだよ」と、御年80歳を超えた女性です。声を震わしながら弱音を吐かれました。「二年前の一度目は自力でやれた。でも二度目は無理。もう何も残っていない。今度は娘んとこには頼れん。心が折れだけん...。」

状況を聞けば聞くほど、自力再建の道は行き詰まっていると感じられてくるばかりです。こうなってくると行き着く先には《絶望》が待っているだけかとなってきたから、気持ちの転換が必要になってくるわけです。にもかかわらず、《希望》があると考えられるか。

ここでは他力、助けをあてにする。そこでしか希望は見出せない。自分は見捨てられし者はならないと信じる。この転換にはどうしても、誰か、隣人の存在が必要になります。ズバリいえば、訪ねてゆく人がいて、自分では開けぬ道が開く。九キ災やYNF（*註1）のメンバーが、日々にAさんに語り掛けしていました。「大丈夫。何とかするけん。一人でやらんと、〇〇さんも、△△さんもある。心配して相談に乗る人がAさんにはついとうけん。心配せんでよかよ。」

この言葉おかげが、Aさんの心を「救われた」



小城教会 佐賀教会 唐津教会
牧師 白川 道生

と転換してゆく瞬間を目撃しました。

果たして、絶望から希望への転換が起こるのか、被災地の今の課題です。災害の中で、何が生きる力の支えになるか、探し求めている現実があります。「人間を支えることば・救い」。まさしく宗教が常に語っている、「苦難に寄り添つて、共にいてくれる神様」、「あなたを決して見捨てられし者とはしない」という神様の約束の言葉が待たれている。そう思えてなりません。

大町町で被災された、ある住民さんから、発災からひと月ごろ、わたしに突き付けられた質問がありました。ワークを終えた夕方でした。「あなた牧師さんかね、だったら聞きたい」と。「なぜ二度なのか？わたしら、この地域だけ、どうしてなんだ？不条理じゃないか。理解できません。」…私はその場で質問に答えられませんでした。その日から探し始めました。苦難の人々に寄り添われるキリストを想い、キリストが今、おられるであろう場所=重荷を背負わされている被災した地で。

同時に、このような時、キリストに仕える、ディアコニアにつとめるルーテル教会・牧師のあり方/フォーメーションはどうあるべきかを、佐賀県の被災地域で探求しています。

*註1. 九州教区が、災害支援活動で協働させてもらっている団体です。

熊本地震修復報告

－神水教会－

神水教会 牧師 角本 浩

熊本地震から5年。神水教会の修築工事を無事に終えることができました。皆様のお祈りとお支えに心よりの感謝をもって、ここにご報告いたします。

2016年4月14日午後7時から、建築委員会は行われてありました。懸案であった聖壇の壁や床の工事をすることを決定し、夜9時、解散しました。その約30分後、大きな揺れが襲いました。のちに「前震」と呼ばれるものでした。

今しがた、修築工事が必要と決めたばかりのタイミングでしたから、わたしは、倒れてしまっているのではないか、と思って会堂に行きましたが、無事でした。さらに、その二日後の「本震」も耐えました。

しかし、聖壇壁にはひびが多く入りました。地震後、半分冗談、半分本気で、「礼拝中に地震が来たときは、犠牲になるのは聖壇に立っている牧師だけですから、ご安心を」と言って礼拝を再開していました。

修築工事を急ぎたい気持ちはありませんでしたが、公共施設や、より被害の大きなところが当然ながら優先されます。待つほどに資材なども高騰していく中、「良い時」が与えられるのを待ちました。建設会社の方もめどが立ち、工事開始となったのが今年4月です。

4月頭から、9月末まで。6か月間の工事を経て、10月2週目から会堂での礼拝復活。

祈りつつ、過ごしてきた5年の間に、神水教会はスリッパから土足へ舵を切ってありました。そのため、この機会にやりましょうと、床を土足対応にする工事も併せて行いました。また前々から声の上がっていた入り口の整備も行いました。

工事が行われた半年間は、神水幼稚園ホールをお借りして礼拝を守りました。これも、意味ある時間です。実は、神水教会は宣教開始当初、もともと会堂を持ってありませんでした。はじめの約20年間は、神水幼稚園で礼拝をしている群れでした。そのため、ある意味、これは原点に立ち帰るような思いすらする時間となつたのです。教会生活の長い方々には、懐かしい時間ともなりました。

宣教開始からおよそ20年を経て、会堂が与えられたのは1951年。つまり、今年はちょうど献堂70年目の記念すべき時でもありました。

終わってみれば、やはり一番「良い時」を神様がお与えになったと一同、喜んであります。

「さあ、宣教へ」という新たな思いを与えられました。今後も神と隣人に仕えるため、歩んでまいります。本当に、ありがとうございました。



修築中の礼拝堂

阿蘇山荘委員会報告 その2

ありがとう、阿蘇山荘

社会・奉仕部長 尾田 明子

秋晴れの2021年10月29日（金）、『阿蘇山荘建物使用感謝・解体の祈り』が司式・崔大凡牧師、説教・角本浩牧師（九州教区長）によって執り行われました。

今から約70年前のルーテル教会は、海外の同胞から多くの物心両面の祈りと支援を受けて成長をしていました。当時米国のルーテル教会E（U）LCAから日本の宣教の一助にとキャンプ地購入の為に尊い献金がささげられ、阿蘇山荘のほか広島・梅ヶ島・能勢にキャンプ場が建てられ、世代を超えて充実した野外修養施設として活用されました。当時の阿蘇山荘も夏季聖書学校やキリスト教学校・幼稚園・保育所など教育施設のキャンプや修養会、合宿など、阿蘇の雄大な自然に恵まれた環境の中で、神の愛を実感しつつ豊かな信仰の交わりを経験した人がどれだけいたことでしょう。

しかし、時代の変化の中でこれらの野外施設は建物の老朽化や管理運営などいくつかの課題を経て、阿蘇山荘以外のキャンプ場が次々にその務めを終え閉館されていきました。最後に唯一残ったこの阿蘇山荘が、その間維持管理の工



夫や、建物の改修や修理、キャビン増築などを重ねながら、68年もの長きに亘って継続されてきたことに驚きを隠せません。

阿蘇山荘が継続できたのは、教会や信徒の愛情と力で支えられたことは勿論ですが、当時大学認可申請の為に管理運営を担った九州ルーテル学院の恩恵に浴するところが大きかった事はいうまでもありません。

しかし5年前の熊本地震で、本館・キャビンなどすべての建物が使用できなくなる大きな打撃を受けました。再建のめどが立たないまま、教区、女性会、学院、阿蘇山荘委員会などそれぞれが思いや願いを持ちつつ現実の課題と向き合って、真剣に協議を重ねてこの日を迎えました。何としても再建を！と切望し、折あるごとに献金を捧げ、篤い思いと祈りを寄せてくださる方が未だに多いことも事実です。神様に感謝を捧げ、建物を解体することは決して終わりではありませんが、建物再建に固執せず、次の

時代の信仰の継承の場として更に持続可能な用途を果たす為に、将来計画の知恵を出し合い、祈りながら進んでいく必要を今痛感しています。

建物と別れ感謝の祈りのこの日、おふたりの牧師は復活の主を信じて白いストールで司式・説教をされました。

ありがとう、阿蘇山荘。そしてこれからもうひと頑張りするのは神様から愛された私たちです。



教会物語

八代教会

八代教会は、1950 年に石松量蔵牧師によって家庭集会が始まり、長町の個人宅で伝道所が開かれ、チャールズ・B・ダウキンズ宣教師によって伝道が支えられ、1958 年日本福音ルーテル八代伝道所に教会にとって初の定住牧師となる内海望牧師を迎える。現在の地に伝道所が移り歩みを始めました。それから 10 年後の 1968 年に現在の教会堂が建ち、2021 年現在八代教会が誕生してから 63 年目を迎えています。

2020 年には年度途中で主任の関牧師が休職することになりましたが、教区のかたがた、主に熊本地区の先生がたに支えられ、礼拝が続けられて来たことに深く感謝いたします。

八代教会も高齢化を既に迎えていますが、若い世代の洗礼者も与えられ、喜びと希望と感謝をもって歩みを続けています。

教会の玄関が 2 階にあるという構造上の問題で、礼拝に來たくても来られない人々がいるという課題があります。八代教会は、家庭集会がとても盛んな教会でしたから今こそまた原点回帰のときかもしれません、コロナ禍にあって様子見をしているところです。主の導きを祈るものです。



聖ペテロ教会

聖ペテロ教会は、ルーテル教会では珍しく、人名のついた教会です。その由来は、認可申請時、ウィルソン牧師が「この新しい教会は奈多という漁村の傍の丘にあるから、イスラエルのヤッフォと云う漁村の裏の丘上にある有名な教会“聖ペテロ教会”」の名をとって命名されたそうです。1988 年“聖地研修の旅”に当教会からも 3 名が参加されました。地中海に面したヤッフォ丘上の“聖ペテロ教会”を訪れられ、「周りの景色は変わっていても、丘上の素晴らしい、美しく大きな教会堂を見学して感激でいっぱいだった。」と語られたことを思い出しました。



2 人のヘレン宣教師 1 人にヘレン・シャーク宣教師。1938（昭和 13）年、奈多の地に伝道の種まきを幼稚教育から取り組みました。社会情勢が悪化し、1 年間の奈多での活動でしたが、“奈多愛育園”という名前を残して帰国されました。2 人のヘレン・ハーダー宣教師。終戦後、シャーク先生の思いを受け、奈多に種まきの続きを来られ、聖ペテロ教会と奈多愛育園に献身的伝道活動が今日へと繋がっています。

施設紹介

日田ルーテルこども園

学校法人
日田ルーテル学園
幼保連携型認定こども園



大分県日田市中央部に位置する当園は日本福音ルーテル日田教会のすぐ裏手にあり、今年で創立 69 年を迎えます。57 年前に日田市内中城町からこの地に教会・幼稚園共に移転し新たに礼拝堂・園舎を建て地域に根差した幼児教育を行ってきましたが、2020 年隣接地購入が卒園・在園児関係者の署名を集め実現し、園児が増える度に建て増しを繰り返し、老朽化した園舎の建替えの機会が与えられました。建替えにあたって 200 名の大好きな在園児が安全に園生活を送りながら新園舎へ移れるよう設計し、1・2 階を 1 歳児～5 歳児の教室、3 階をホールや収納庫等、西側既存園舎の 1 階に 0 歳児教室・職員更衣室、2 階に子育て支援ルームを置くことにしました。

3 階建を計画するにあたり、今までの『幼稚園型認定こども園』では制度上建てられず、将来を見据えこの機会に『幼保連携型認定こども園』の申請も同時にを行い、神様に導かれ園児・職員・教会員の祈りが叶えられました。

これからも神様の愛を伝え続ける施設として元気に地域に愛される幼児教育・保育を展開していきたいと思います。



熊本にあります九州学院は、1911 年に、アメリカからの宣教師 C. L. ブラウン博士と米国南部一致ルーテル教会の人々の祈りと献金によって、日本の青少年教育のために設立されました。

2021 年で創立 110 周年を迎え、これまでに多くの著名人を輩出し、熊本では文武共に優れた有数の学校として知られています。

現在、幼稚園、中学校、高等学校を併設

し、約 1500 人の子ども、生徒が溌澤として学んでいます。

設立当初にはルーテル教会の神学校も併設されていましたので、現在のルーテル神学校の母体ともなり、多くの牧師も九州学院の出身者でしたし、現在も、牧師のお子さんが中学・高等学校で学んでいます。

学校は、毎朝の礼拝から始まり、聖書の授業が行われ、豊かな人間性を育むための努力が日々なされています。

右の写真は学院のシンボルともなっているブラウンチャペルで、指定文化財として熊本県で第 1 号認定を受けたもので、2025 年に設置 100 年を迎えます。

(副院長・チャップレン 小副川幸孝)



1966 年文化庁登録
有形文化財に登録時のチャペル

九州学院

各会報告

女性会

女性会会长 榎津直江

21期の第1回九州教区女性会長会を9月24日(土)に予定していましたが、新型コロナの感染者数が1000人(福岡県)近くになっていたため、やむなく延期をすることに決定し、11月13日(土)に博多教会で開催することができました。

13教会21名の参加があり、まず、池谷牧師による開会礼拝の後、榎津女性会長の挨拶、教区社会・奉仕部長尾田明子さんご挨拶をうけ、それぞれの役員会から21期の活動の柱や予定などを伝えました。次に3グループに分かれ、各教会が持っている主な課題「若い方が女性会に加入する手立て」「高齢者へのかかわり方」の2点を中心に各教会の取り組みを出し合いました。

- ・女性会の聖書の学びや社会問題についての勉強会に誰でも参加できるようにする。
- ・楽しい行事を企画して教会全体に参加を呼びかける。
- ・LINEを使って祈ってほしいことを伝える。
- ・高齢の方には手作りの教会の折り紙を貼ったカードや音声テープを送る。
- ・未加入の方には信頼関係を築いてから、「手伝ってくれませんか」などの声かけをする。

対面での会長会が実施でき、課題や喜びを分かち合えたことを感謝しています。



各会報告

青年会

青年会会长 深町優太

九州教区青年会は「聖書を、学ぶ」ということをテーマとして、月に一回オンラインで活動しています。私たちは、聖書研究という名前で聖書を学んでいましたが、青年会の活動に誰でも参加しやすいように9月から「Pray hour(祈る時間)」という名前に変えて活動してきました。9月はマルコ8章27節～36節について池谷牧師を通して学びました。また、参加人数が少ないと言う課題がありましたが、内容なども変えてやることにより参加人数も増え、皆で楽しく学びながら活動しています。もちろん、レクレーションなどの遊びも行っています。どなたでも大歓迎ですのでぜひ周りの青年にお声掛けをいただけると嬉しいです。

今は、コロナ禍の中でオンライン活動を基本として活動を行なっていますが、コロナの状況に応じて対面での活動なども感染対策を万全にした上でも考えてあります。12月にイベントなどを開催する計画もしています！！これからもっと活発に活動していく、九州教区を盛り上げて行きたいと思います。



Pray hour 例

- アナウンス
- アイスブレイク1
- お祈り
- 聖書朗読
- 講話
- ディスカッション
- お祈り
- アイスブレイク2
- アナウンス

- 九州ルーテル学院：10月に創立95周年を迎え、祝いました。新型コロナウイルスの影響と変動の中でも創立100周年に向かう学院の歩みが守られています。
- 児童心理治療施設こどもL.E.C.センター：コロナ禍で不自由な生活を送っている子ども達に「Amazonみんなで応援プロジェクト」を通じて多くの玩具や文具が届きました。繋がりを導いて下さった神様に感謝です。
- 大江教会：2021年9月23日に予定していた宣教100年記念礼拝は、2022年10月10日（月・スポーツの日）に延期になりました。100年史の編纂も進んでいます。
- 玉名教会：今年の6月からは礼拝を中止することなく行うことが出来ました。ただ教会学校は、幼稚園に自肃要請が出ましたので8～9月をお休みにし、その間小学科には聖話を郵送しました。
- 玉名ルーテル幼稚園：子ども達と平和について学んでいます。今年はキリバス共和国のタマナ島幼稚園とリモートで交流会をしています。相手を知り、仲良くなる事が世界平和に繋がっていくように願っています。
- 九州学院：九州学院は、2021年に創立110周年を迎えました。11月19日（金）に記念式典・礼拝を行う予定です。また、WEB上でも110周年を記念したイベントが行われます。これまでのお支えを感謝し、これからの方々の歩みのために祈りいただければ幸いです。
- 熊本教会：昨年の礼拝休止（7日曜4/19-5/31）を除き、コロナ感染に細心の注意を払いながら、教会の扉を開き、礼拝を続けることができた。会員一同、幸いだし、感謝だと感じている。
- 牛津ルーテルこども園：夏の恒例行事「年長児の干潟体験」、今年は酷暑を避け9月16日に実施しました。岩切牧師と子どもたちは、親子のムツゴロウかと見間違うほど泥んこになって楽しました。
- 博多教会：10月以降、集まる形での礼拝が再開され、ともに礼拝できる喜びを分かち合っています。一部の集会も再開されています。
- 長崎教会：群れの小ささを生かして、コロナ禍の中でも毎週の礼拝ができ、感謝です。最近、会堂の外壁に十字架を設置し、掲示板も新しく付け替えました。
- 佐賀教会：2021年8月豪雨により、礼拝堂建物は床上浸水まであと10cmに迫る被災。24時間送風・乾燥工程を経て、10/9消毒・防カビ作業が終りました。感謝。
- 小倉教会：今年の宗教改革主日は初の試みである八幡教会とのインターネット中継礼拝を行いました。礼拝後には八幡教会のみなさんと画面越しに交流を楽しみました。
- 直方教会：最近は久しぶりに教会を訪ねて来られる方が多くいらっしゃいます。中には数年ぶりの人も。再会を喜ぶとともに、教会がここに在り続けることの大切さを感じています。
- 熊本ライトハウス・熊本ライトハウスのぞみホーム：コロナ禍でもオンラインを使った交流会や礼拝など新しい行事を見つけ楽しんでいます。
- 健軍教会：宣教研修のため、笠井春子神学生が私たちの交わりに加わってください、美しい声で司式と説教を担当くださることを皆で喜んでいます。主が導く牧者へ道のりを応援しています。
- 甲佐教会：1981年に献堂された礼拝堂よりも前から用いられてきた旧牧師館を解体することを決議しました。後ろ向きのようでいて、駐車スペースが広がれば沢山の人を迎えると前向きです。